

住居学－授業関連の新聞記事レポートについて

家政教育講座・曲田清維

1. 授業の概要

「住居学」(2単位・2回生対象)は後学期開講科目であり、家政教育専修にあつては必修科目、生活環境コースにあつては選択Aの位置づけである。また、中学校及び高等学校免許・家庭の必須科目ともなっている。今年度の受講生は30名、うち、最後まで受講出来た学生は24名(最終評価対象者)であった。

15回の授業は、講義に加え、絵本を使った住環境問題の解説、DK誕生ビデオ視聴、住宅の耐震を学ぶ「紙ぶるる」の製作、照度計を用いての自宅の照度調査、騒音計による騒音調査など、多彩な内容となっている。

さらに、宿題(授業外学習に相当)として新聞記事を活用した「住宅・住生活・住環境」に関する調べ学習をレポートとして課している(3回)。新聞記事レポートは、10年ほど前までは半期に6回ほど(月1回)課していたが、学生側からすれば負担が大きいようで次第の減らさざるを得ず、現在の最小限の回数に以後落ち着いている。それでも期限を守らず提出遅れの学生が毎回数名は出てくる。

2. 新聞記事レポートのアンケート結果

受講生は、講義及びテキストから導かれる内容を踏まえつつも、新聞記事のそれは少々とは言え、現実社会を垣間見ることになる。幾つか代表的な評価・感想を紹介する。

- ① 3回のレポートで、自分が家を購入したり或いは借りる時に気をつけることや、過疎地故の不便さ、空き家がなぜいけないのかなど、普段見過ごすことについて考えさせられました。しかし、どの問題も解決は難しく国全体で取り組む必要があることも感じました。
- ② 新聞レポート作成に当たって、住宅関連記事が思いの外、少ないような気がしました。もう少し取り上げられても良いと思います。また新聞を読むきっかけにもなりました。
- ③ 一人暮らしで新聞と関わる機会が少ない。課題が出てから意識して新聞を読むよう

になった。そうすると「住」についての記事多く紛れていることに気付いた。(中略)新聞を読むと言うことは、自分の中の知識を深めることはもちろん、社会の動きを知る重要なものだと感じた。

- ④ 新聞を読むようになって、住宅・住環境に関わるニュースの多くが、住宅と災害の深い関係を取り上げていることを感じた。また数少ない災害以外の記事として、家に対する価値観の変化を話題にしているものもよく見られた。それにしても、昔は家を「所有する」という考えであったが、今は家を「借りる」「シェアする」というスタイルも見られ、多様化進んできていると感じた。
- ⑤ 安全に関わる記事を中心に3回のレポートを提出した。レポートは大変で提出が困難になりそうなことがあったが、多くを学ぶことができて楽しかった。
- ⑥ 新聞記事レポートを通して、今まで考えることのない問題に遭遇しました。例えば高齢者の問題はよく知っているつもりでしたが、リアルな実態や数字については殆ど知りませんでした。記事を通しての高齢者の声は心に響きました。(中略)普段から新聞等を通して世間で起こっている問題について知り考えることは大事だと思いました。今回の課題をきっかけに色々な話題に触れ、考え、視野を広げていきたいと思います。

3. 総括

住居学における新聞記事レポートの宿題は、入り口が住宅・住生活・住環境住関連記事でもその間口は広く、自然と様々な問題提起に繋がっていく。

レポート作成に先立っては、生の新聞記事を読むことを大原則としているが、ネット記事が急速に増えている。それでも新聞を読むトレーニング(長文の読解)につながれば良いと思って目をつむる次第である。